

本日は、二十歳を迎える私たちの門出に対し、このような素晴らしい式典を催していただき誠にありがとうございました。また本日「」臨席の皆様に心より感謝申し上げます。

今田といつ田を迎えたのは、私たちを見守つてくださった家族、喜びも悩みも分かち合つてきました仲間、そして地域の皆様の支えのおかげです。

毎回の休み時間に校庭に出でグッジボールをしていた私も気付けばもう二十歳を迎えました。今は講義に間に合うために少し走るだけでも息が上がつてしまふくらいで、小学生の頃の元気さを懐かしく、また羨ましくも思えます。

長いようで短いこの十年、振り返ると一番に出てくる思い出は何でしょうか。私は中学、高校で所属した水泳部での日々が一番に思い出されます。県大会入賞、東海大会出場を目標に努力し、辛いことや苦しいことを乗り越え目標を達成した経験、そして仲間と切磋琢磨し高めあつた日々は私の軸となり最大の財産となっています。

そのような思い出のあちこちに浮かび上るのは傍で支えてくれた家族です。毎日の送迎や精神面のサポートなど、沢山の場面で支えられました。こうした支えは特別な出来事ではなく、小さな出来事の積み重ねです。当時はそのことに気付けず、当たり前に受けられるものだと感つていましたが、振り返ればその小さな出来事が私を「」まで導いてくれた大きな力になつしていました。

それだからこそ、日々に隠れている小さな親切や優しさに気付き、それを大切にしていきたいです。そして皆さんにもどうか、身近な優しさに気付き感謝を伝えることを忘れないでいてほしいと思います。

話は変わりますが今年のテーマの一部である「」には自分の成長と魅力を肯定する気持ち、そして今が一番輝いているという思いを込めていました。

少し私の話になりますが、私は周りと比べ自分に自信を無くしてしまうことがよくあります。特に大学受験では第一志望の大学に落ち、今までかけてきたものすべてが無駄に感じ自分なんていない方がよかつたと考えてしまいました。

しかし、大学に入つてから友達に刺激をもらつ中で自分も後悔しないよう何事にも挑戦しようと思えるようになりました。ミスコンの実行委員をする友達、留学に挑戦する友達、そんな素敵なお姿を見て私も少しずつ行動する勇気が持てるようになりました。そして私もゼミ長や留学などに挑戦し、自分の可能性を広げています。

私たちには誰もが、かけがえのない価値を持つ存在です。どんなに落ち込むことがあっても自分のことを認め、そして自分のことを一番愛してほしいです。それが再び前を向き歩みだす原動力になります。

最後に、二十歳の節目を迎えた私たちは感謝の思いを胸に仲間と共に、未来へ力強く歩みを進めて参ります。道半ばではございますが、これからも私たちを温かく見守つていただけますと幸いです。これをもちまして、誓いの言葉とさせていただきます。